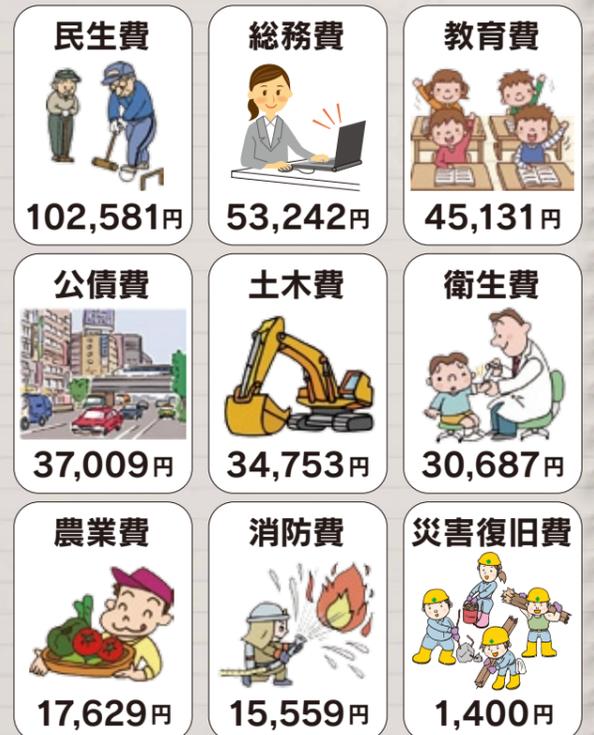
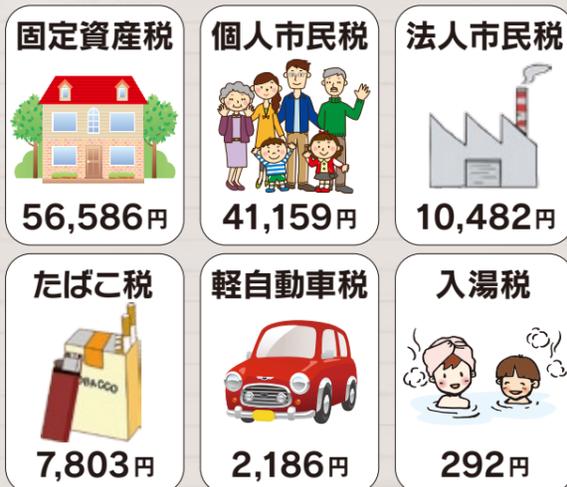




市民1人あたりに使われたお金
345,999円(8,008円含む)



市民1人あたりの市税
118,508円



※「市民1人あたり」は、平成25年3月31日現在の人口をもとに算出(住民基本台帳人数45,541人)
 ※入湯税は、ピアスパークしもつま及び道の駅しもつま維持管理基金と観光事業に使われています。

平成24年度決算 財政健全化指標等の公表

下妻市の健全化判断比率

指標	平成24年度	平成23年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	—	13.30	20.00
連結実質赤字比率	—	—	18.30	30.00
実質公債費比率	14.0	15.4	25.0	35.0
将来負担比率	98.8	114.6	350.0	

※「実質赤字比率」「連結赤字比率」は、赤字額がないため「—」と表示しています。

下妻市の資金不足比率

会計名	平成24年度	平成23年度	経営健全化基準
水道事業会計	—	—	20.0
下水道事業特別会計	—	—	20.0

※各公営企業会計は、資金不足が生じていないため「—」と表示しています。

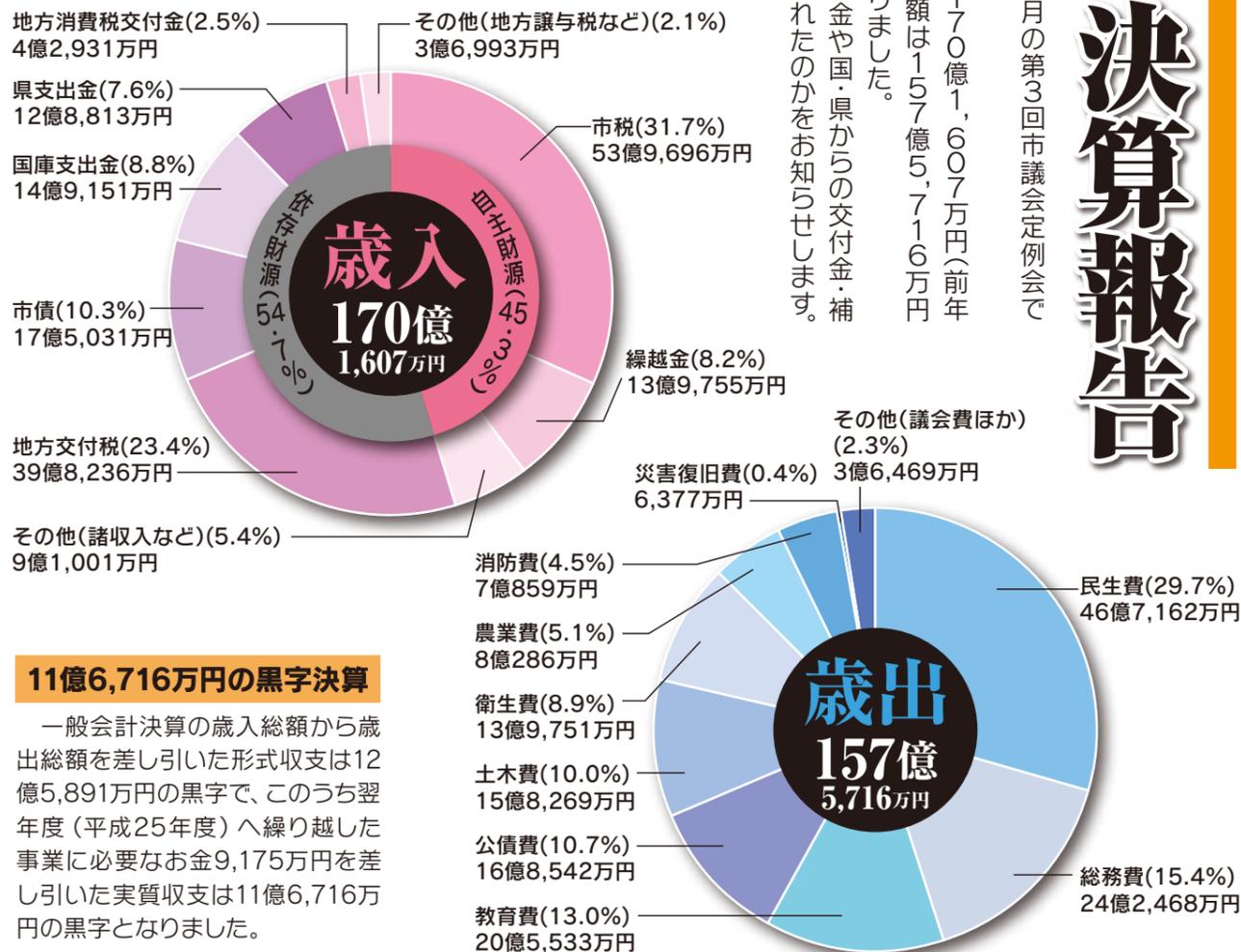
「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく平成24年度決算の健全化判断比率及び資金不足比率は、各指標のいずれの数値も基準以下で、下妻市の財政は健全であるといえますが、今後も行財政改革などに取り組み、引き続き健全な財政運営を進めていきます。

【指標の説明】

- 実質赤字比率……福祉・土木・教育などを行う一般会計の赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示す比率
- 連結実質赤字比率……特別会計や企業会計を含むすべての会計の赤字や黒字を合算し、市全体の赤字の程度を指標化し、市の財政運営の深刻度を示す比率
- 実質公債費比率……市の借入金の返済額及び、これに準ずる額の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示す比率(3か年の平均の数値で表示)
- 将来負担比率……市の借入金や将来支払わなければならない負担等の現時点での残高の程度を指標化し、将来財政を圧迫する可能性を示す比率
- 資金不足比率……公営企業ごとの資金不足額が事業規模に対してどの程度あるかを示す比率

一般会計決算状況

一般会計	決算額
歳入総額 ①	170億1,607万円
歳出総額 ②	157億5,716万円
歳入歳出差引額 ①-②=③	12億5,891万円
翌年度へ繰越すべき財源 ④	9,175万円
実質収支額 ③-④	11億6,716万円



11億6,716万円の黒字決算

一般会計決算の歳入総額から歳出総額を差し引いた形式収支は12億5,891万円の黒字で、このうち翌年度(平成25年度)へ繰り越した事業に必要なお金9,175万円を差し引いた実質収支は11億6,716万円の黒字となりました。

特別会計決算状況

会計区分	歳入決算額	歳出決算額	差引残高
国民健康保険	61億1,064万円	56億4,002万円	4億7,062万円
後期高齢者医療	3億4,565万円	3億4,194万円	371万円
介護保険	29億7,024万円	29億145万円	6,879万円
介護サービス事業	957万円	656万円	301万円
下水道事業	7億2,855万円	7億1,634万円	1,221万円
砂沼サンビーチ	2億7,811万円	1億7,561万円	1億250万円

平成24年度の決算が、9月の第3回市議会定例会で承認されました。
 一般会計の歳入総額は、170億1,607万円(前年度比11.2%減)で、歳出総額は157億5,716万円(前年度比11.3%減)となりました。
 皆さんから納められた税金や国・県からの交付金・補助金などがどのように使われたのかをお知らせします。

平成24年度 決算報告

市債残高の推移(一般会計+特別会計)

